令和７年度 第２回学校運営協議会・学校関係者評価委員会【報告】

令和７年７月４日（金）、本校において第２回学校運営協議会および学校関係者評価委員会を開催しました。当日、まず授業参観を実施し、その後に協議会を行いました。地域代表の方々や保護者、ＰＴＡ役員、校内委員が一堂に会し、学校の教育活動に対する意見交換と今後の方針について活発な議論を交わしました。

【授業参観の様子】

今回の授業参観では、各学年ともに子どもたちが日頃の学習成果を生き生きと発表する姿が見られました。小規模校ならではの落ち着いた雰囲気の中で、児童一人ひとりに目が行き届いた丁寧な指導を行い、参観者からも「子どもが安心して学べる環境が整っている」「少人数の強みが生かされている」との声が聞かれました。参観後には「この人数だからこそ、子どもが主体的に動ける授業ができる。」「個別に先生と向き合える場面が多く、子どもにとって非常に貴重な経験になっている。」といった肯定的な評価が寄せられました。

【学校の近況報告と校長挨拶】

協議会の冒頭では校長より、４月からの教育活動の進捗と児童の様子について報告がありました。子どもたちはここまでの学習内容の振り返りと、夏休みに向けた課題整理に取り組んでいます。また、来週から全校児童による宿泊学習を予定しており、宿泊先となるＪＡ教育センターとの連携も初めての試みとなります。受け入れ側との調整や安全面の配慮を重ねながら、充実した学習活動になるよう準備を進めている旨の説明がありました。さらに７月 31 日にはＴＢＳ主催のコンクールに参加することが決まり、学校として子どもたちの表現力向上の機会と捉え、取り組んでいく予定です。

【学校評価・スクールマニフェストの説明】

続いて、教頭より本年度の学校評価計画の概要説明がありました。年５回の学校運営協議会の開催と、児童・保護者を対象とした年２回のアンケート調査、自己評価・外部評価のサイクルなどの説明があり、委員の皆様に年度末の最終評価に関わっていただくことになります。評価項目は「学習指導」「生徒支援」「広報」「地域連携」「保健・安全・業務改善」「教職員の働き方改革」など多岐にわたり、数値目標も設定されています（例：授業が「分かる」と回答する児童を 17 人中 14 人以上とするなど）。本年度は生成ＡＩの利活用を教職員の業務改善の一環として取り入れ、教育活動の質の向上につなげたいという方針を示しました。

【運動会・三世代ふれあい交流会の振り返り】

本年度は、運動会と三世代ふれあい交流会を同日に開催し、地域・保護者・児童の交流が深まる貴重な機会となりました。保護者アンケートでも「親子で昼食をともにできたことがよかった。」「地域と学校が一体感をもって取り組めた。」と好評でした。

一方で、運営面では「競技に出場しながら調理にも携わる負担が大きかった。」「応援に参加できなかった。」との意見もあり、次年度に向けた改善点として共有しました。

また、昼食時にふるまわれたカレーについては、炊き出し訓練の一環という位置づけがある一方で、調理者が競技を見られない課題も指摘されました。自治会と連携し、目的に応じた準備体制の再考が必要です。

【地域行事との連携・今後の可能性】

地域では既に防災訓練や清掃活動、敬老会などの行事を行っていますが、現状では児童との関わりが限定的です。会議では、こうした行事に児童が関わることで、地域理解や防災意識を高める機会につながるとの意見が出されました。消防団や振興会によるニュースポーツ体験（例：モルック、グラウンドゴルフなど）を通じた交流の提案や、平日の授業時間を活用した体験学習の可能性など、地域資源を生かした学習活動の広がりについても意見が交わされました。

【入学者数減少への危機感と情報発信の必要性】

来年度の新１年生は、現時点で最大で４名との見込みであり、児童数確保が大きな課題となっています。保護者の中には「少人数で個別に丁寧に見てもらえる環境を魅力に感じる」という声もある一方、他地域からの転入希望者が受け入れられていない状況に対する問題提起がありました。今後は、学校の魅力を正しく発信し、保護者や地域住民とともに「選ばれる学校」としての認知を高めていく取組が求められます。

今回の協議会では、子どもたちの学びを中心に据えながら、保護者・地域・学校がよりよい連携を目指す方向性について多角的に話し合いました。今後もこうした意見交換を積み重ねながら、地域とともにある学校づくりを進めてまいります。